EVから給電、小型機

東電HDなどAIで最適制御

今夏発売

東京電力ホールディングス（HD）はダイヤゼブラ電機（大阪市淀川区）と、電気自動車（EV）から家庭に電気を供給する機器「EIBS Va—1（アイビス・ブイエーワン）」を共同開発し今夏に発売する。東電グループが提供する人工知能（AI）で最適制御する機能を利用できるのが特徴。同じく共同開発したマルチリンク蓄電システム「EIBS V」の受注も始めた。

EIBS Va—1は、ダイヤゼブラ電機の特許技術である高効率と小型化を両立する絶縁双方向電力変換技術を採用。EVにためた電気を家庭で使える既存V2H（ビーグル・ツー・ホーム）製品の中でも、薄型・軽量と省スペース設置を実現した。

一方のEIBS Vは多機能パワーコンディショナーとV2H、蓄電池の各ユニットで構成し、EVだけでなく太陽光発電や蓄電池も利用できる。蓄電池には、従来のリチウムイオン電池（LiB）に比べ長寿命で低温性能に優れたチタン酸LiBを使用した。

AIによる最適制御は家電の使用状況やEVの利用実態を学習し、気象情報をもとに太陽光の発電量を予測することでV2Hや蓄電池の充電・放電を自動で制御する。

気象警報を基にEVや蓄電池への充電を優先するなど、非常時も安心して使用できるという。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社